

令和7年度 空知地域づくり連携会議 議事要旨

日 時：令和7年6月26日(木)16:00～17:30

場 所：岩見沢平安閣 4階コハク



会議の様子

出席者（構成員等）

夕張市長、岩見沢市長、美唄市長、芦別市長、赤平市長、三笠市長（代理：企画財政部長）、滝川市長、砂川市長、歌志内市長、深川市長、南幌町長、奈井江町長、上砂川町長、由仁町長、長沼町長、栗山町長、月形町長、浦臼町長、新十津川町長、妹背牛町長（代理：副町長）、秩父別町長、雨竜町長（代理：副町長）、北竜町長、沼田町長、札幌開発建設部長、空知総合振興局長、空知シーニックバイウェイ代表、寒地土木研究所技術開発調整監

議 事

- （１）令和6年度札幌開発建設部の取組状況について
 - ・資料1に基づき、説明（札幌開発建設部）
- （２）道央広域連携地域政策展開方針の推進状況(R6)について
 - ・資料2に基づき、説明（空知総合振興局）

意見交換

- 共創ミーティング（テーマ：地域資源の活用、交流人口の拡大）
- ・空知総合振興局長の進行により意見交換を実施

○深川市長

- ・当市では、関係人口の創出に向け、「スポーツ合宿の誘致」に取り組んでいる。昭和42年

には「スポーツ都市宣言」、平成7年には日本陸上競技連盟の第3種公認の全天候型施設を整備した冷涼な気候を活かした合宿誘致を展開し、全国各地の実業団や大学に来ていただいているところ。

- ・平成30年には、旧音江中学校の校舎を活用し、体育館を併設した交流宿泊施設「エフパシオ」を整備。トレーニング施設の充実、近年の暑さに配慮したエアコン設置など、合宿環境の充実を図っている。
- ・合宿誘致に向けては、市の教育委員会がワンストップ窓口で対応。送迎やレンタカーの貸出、市内施設の無償利用等に対応。
- ・これらの取組により、令和6年度には年間1万6,616泊の受け入れがあり、関係人口の創出に大きく寄与しているところ。こうした合宿等のご縁を通じて、企業版ふるさと納税をいただくような取組も図ってまいりたいと考えているところ。

○北竜町長

- ・「第2世代交付金」を活用して、今後、ひまわりを核としたまちづくりを進めていく。短い申請期間の中で、町の職員が本当によく頑張って検討してくれたこと、また、町民の皆さんのご理解・ご協力に感謝。
- ・この事業の目的は、まずは不便さを解消すること。不便を解消することは、こどもや若者、女性に選ばれる町であり、これらの方々にとって不便さが無くなったと思えるような、そのような方向性で今回の事業を始めたところ。
- ・計画には7つの柱がある。①コンパクトタウンの推進、②新たな公共交通ネットワークの確立。これは、町内の公共交通機関がゼロになったことを受け、町営バスを運行し、通学、通院、買い物など町民の皆さんの要望に応じていくもの。③働く場の確保を町の中でしっかりと考え、町民が稼ぐためのまちづくり人材・組織の育成、④主体的・共創的な地域や町外とつながって学ぶ教育・子育てのための環境整備、⑤45年間続いているひまわりの活動をキーとするひまわりのブランド化・プロモーションの推進、⑥関係人口・交流人口の創出・拡大・深化により、人口1,600人の町の関係人口を、5年間で1,600人とすることを目指す。⑦デジタル技術やICTの活用、DX推進によるデジタル地域社会の形成。町民一丸となって、新たな事業を進めてまいりたい。
- ・別の話題になるが、町内の子どもたちから、「交差点に溜まった水がかかって困る」との相談があった。子どもたちの声が道路を管理する行政に届き、早急に対応してくれた。スピード感のある対応に感謝したい。

○歌志内市長

- ・炭鉱閉山後も露頭採掘として石炭事業を継続しているが、2026（令和8）年の12月をもって終了予定。跡地には、太陽光発電など再生可能エネルギー供給基地としての活用に向けた調査を進めている。
- ・本年4月にリニューアルした道の駅「うたしないチロルの湯」では、サステナブルをテーマに、観葉植物や園芸用品、フレグランスを販売。リニューアルから3ヶ月経過し、来訪客は増加傾向。

- ・地域資源に乏しい本市ではあるが、特産品の開発が一步ずつ前に進んでいる状況。ふるさと納税返礼品として好評を得ている天然の「ハチミツ」は個人生産のため、需要に追いつけず、生産性の拡大について模索中。温泉施設「チロルの湯」では、ハチミツを使用したボディソープや保湿クリームも販売されており、売れ行きは上々である。今後、どさんこプラザや砂川・ハイウェイオアシスなど販路拡大を検討している。
- ・上歌ヴィンヤードのぶどうを使用したワインが、ミシュランの三つ星レストランで期間限定のペアリングワインとして提供され、高い評価を受けている。昨年12月、1年間に製造しようとする酒類の見込み数量の緩和が受けられる「ワイン特区」の認定を総理大臣から受けたところ。さらに、自前のワイナリーの建設を進めており、いよいよ歌志内産のブドウが歌志内で醸造されることになる。本当の意味での純歌志内産ワインになるのではないかと期待しているところ。
- ・本年4月にリニューアルした道の駅の活用、昭和59年のテレビドラマの舞台となった旧住友上歌志内炭鉱の施設（通称：悲別ロマン座）の日本遺産「炭鉄港」構成文化財としての登録見込み等、広域観光の一翼を担うことのできる施設として期待でき、多くの来場者が見込まれているところ。
- ・地域資源の活用と交流人口の増加は、地域の持続可能な発展に向けて不可欠な要素。本市には、大きな観光資源等があるわけではなく、個々に点在している観光資源と温泉やスキー場などを連携させていくことが今後の課題と考えている。

○奈井江町長

- ・「生涯活躍のまち」を掲げる中、その柱となる「まちじゅう音楽プロジェクト」は、こどもたちに本物のクラシック音楽を通じて世界を広げてもらいとの思いから、新たな人づくりや居場所づくりと、交流人口、関係人口の拡大を狙いとして、町の音楽専用ホールにフォーカスして取組を進めているところ。
- ・視覚的に事業をイメージできるよう「奈井江町まちじゅう音楽マップ」を作成したほか、推進母体として（一社）ないえ共奏ネットワークも組織した。拠点となる音楽専用ホールは、昨年度も多くの方々に利用いただいており、「まちじゅう音楽」を体感する拠点のひとつとして、誰もが集える、多くの方に親しまれる施設を目指している。
- ・一方で、町内の宿泊施設が少ない状況に鑑み、（一社）ないえ共奏ネットワークや地域おこし協力隊が連携して、昨年11月に「ゲストハウス 泊まれる音楽室」を開設。外国人観光客にも多く利用されており、北翔大学や北海道科学大学、岩見沢教育大学などと連携しながら取組を進めている。
- ・町のキャッチフレーズ「ずどーん」は、生涯活躍のまちの取組にインパクトを与え、または、興味を持ってもらうためのツールが必要ではないかと考えたのがきっかけ。中学生から大人まで参加してもらって検討し、国道12号の一直線を表す擬音としてはもちろん、石狩平野の広がりや暑寒別岳の山並みなども表現できることから、まちづくりのコミュニケーションツールとして「ずどーん」に決定。今後も様々な場面で活用していきたい。
- ・先日、当町の道の駅「ハウスヤルビ奈井江」が、国交省の「防災道の駅」として追加選定された。当町の物産販売によるPRについては、残念ながらなかなか資源が少ないのが現

状。道の駅が、中空知の広域防災の拠点としてしっかりと役割を果たしていけるよう。地元としてできることを関係機関と一緒に検討させていただきたい。

○浦臼町長

- ・最近、自分たちの農産物に付加価値をつけて、町を活気づけようという意識の高い地元の若い農家の方々が大勢現れてきてくれて、地元にとっては人こそが資源であると、つくづく感じられる状況。
- ・最近２ヶ月で４種類の新商品が立て続けに販売されたところ。①「ふっくりんこ」を原料にした甘酒製品、②キングメルティのジュース、③町内産のニンニクやタイム、唐辛子などを乾燥させ瓶に詰めて、購入された方が醤油やオリーブオイルを注ぎ、香辛料から出たエキスを楽しんでいただく商品、そして、④特産のぼたんそばを100%使用したシフォンケーキ。
- ・いずれも総務省の地域力創造アドバイザーや地域おこし協力隊など、外部の方から商品デザインや市場動向、ターゲット等についてきめ細やかにアドバイスをいただいて商品化に至ったところ。多くの地域資源がその価値を十分に発揮できないまま消費されていること、その価値を気づかせてくれて、形にするために、外部の力がいかに有効であるかを実感できる事例。志のある若者とスキルを持った「よそ者」が、自分ごととして地域資源に向き合い、付加価値を高める活動が活発化することを非常に心強く感じている。
- ・特にキングメルティは、作付農家の減少が続いていたが、若手生産者の有志が結束し、外部からアドバイスを受けながら自らブランディングに取り組むとともに、作付面積の拡大や新規就農者の受け入れにも力を注いでくれている。個人や少人数グループの取組で、まだ始まったばかり。苦労も多いと思うが、町としてもしっかりと応援したい。
- ・ハード面でその中核となる道の駅「つるぬま」について、農業者や商工業者の皆さんが地域資源を活用した商品を販売しアピールする拠点として、また、交流人口を拡大するための多様な機能を備えた地域拠点として、今後充実を図っていきたい。「第２世代交付金」の活用をはじめ、国土交通省では、道の駅を拠点とする地域一体のまちづくりや、他省庁と連携した支援策を強力に推し進めていることから、引き続き連携を図ってまいりたい。

○南幌町長

- ・平成初期に整備した「なんぼろ温泉ハート&ハート」を今年１月にリニューアル。日帰り、宿泊客ともに増加傾向で、隣接するキャンプサイトも整備予定。新たな観光需要の創出を図るとともに、交流人口の拡大を目指しているところ。
- ・全天候型の子ども室内遊戯施設「はれっば」は、令和５年５月のオープン以来、多くの家族連れに来館いただいております、累計４０万人を達成。また、中心市街地の交流人口の増加や新たな飲食店の出店も、当町にとっての新たな地域資源になりつつある。
- ・今年３月に中樹林道路が開通した道央圏連絡道路は、長沼南幌間の整備を残すのみ。全線開通は、空知地域への波及効果が大きいものと認識。本町で造成中の工業団地への企業誘致の期待も大きく、雇用の確保とともに、新たな地域資源としても期待している。
- ・圏域の交流人口の拡大に向け、町としても役割を果たしていきたい。

○長沼町長

- ・ 交流人口の増加に向け、本町では道の駅「マオイの丘公園」を中心とした整備に取り組んできた。令和３年度には「ローカル 10,000 プロジェクト」活用し、農産物の直売所などエリア整備を実施した。
- ・ また、道央圏連絡道路の開通により道の駅までのアクセスが向上し、隣接するホテルの開業と相まって、観光客数は従来の 1.5 倍以上に増加。当町に工場があるキャメルコーヒー主催の音楽イベントは、国内アーティストと地域の食も絡めた魅力的なイベントとして人気。
- ・ さらに７月には、手紙社が主催する「北海道蚤の市」が当町にて本道初開催。道外からも多くのクリエイターの方々が出展予定で、町としても新たな交流人口拡大のチャンスと位置づけている。
- ・ 地域資源の活用事例としては、元プロ野球選手の斎藤佑樹さんが、町有遊休地を活用した野球場の整備に着手。今後、官民連携事業として進め、スポーツを目的とした来訪者の増加にも期待したい。
- ・ 舞鶴遊水地では、タンチョウが飛来する。人にもタンチョウもその他の生物も住めるまちづくりをテーマとし、多様な生物の生息環境の保全、また地域の魅力向上に資する取り組みを進めているところ。特に、遊水地に設置をした野鳥の観察小屋には、町外から多くの方が訪れており、観光ツアーや環境学習イベントを実施し、さらなる交流人口の拡大を目指している
- ・ 道央圏連絡道路によるアクセス向上を活かしたサテライトオフィスの誘致も展開しており、新千歳空港や札幌市からのアクセスの良さを背景に、既に IT 企業 2 社が町内に拠点を置いている。
- ・ 今年度から新たに、ローカルスタートアップ推進事業を開始する予定。起業に興味のある方、とりわけ北海道への移住に関心を寄せる方を対象に、観光や食、AI をテーマとした伴奏支援型の起業塾を立ち上げ、町内の若手事業者との連携・共創、将来的には地域での起業、移住につなげていきたいと考えている。
- ・ 本町は農業や自然といった地域資源を最大限に活かしながら、様々な官民連携事業を進めている。これにより、交流人口を着実に増やし、事業の持続的発展につなげる取り組みを加速させていきたい。

○札幌開発建設部長

- ・ 今回の共創ミーティングのテーマである地域資源の活用では、世の中の変化によってニーズも変化するものであり、社会情勢等に応じてあらゆるものが地域資源になる可能性がある。また、住民にとっては当たり前で気がつかない地域の良さを外部の方に教えてもらい、それらを積み上げていくことによって新たな地域資源になることもあるのでは。
- ・ もう一つのテーマの交流人口の拡大では、今後、人口を物理的に増やすのは難しいが、関わりのある人たちを増やしていくことは可能。各市町の地域資源をエリアで結びつけて周遊できるような観光ルートや様々な体験機会の提供が重要。道の駅や道路、河川などのイ

ンフラ整備にあたっては、地域のニーズに応えられるように進めてまいりたい。

- ・住民の皆さんが自分たちの地域に誇りを持って、生き生きと元気に暮らすことで、地域が輝くと思う。将来、こどもたちが一度地域を離れたとしても、いつかまたふるさとに戻ってきてもらえるような、そんな地域づくりを目指したい。
- ・道路の維持管理などは地味な仕事ではあるが、建設業の皆さんには、冬の除雪作業も含めて一生懸命に道路の保守をやっていただいている。小学生から「ありがとう。」の一言をもらえると頑張りにつながる。地域の皆さんとコミュニケーションを取りながら、様々な業界の皆さんが地域に根ざして活動できれば良いと感じた。

○空知総合振興局長

- ・我々としても、引き続き、地域密着で取り組んでいきたい。
- ・ご要望やお困り事など相談があれば何でもお寄せいただきたい。

5 情報提供

- (1) 第1次国土強靱化実施中期計画（R7.6.6閣議決定）について
 - ・情報提供1に基づき、説明（国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部）
- (2) 「空知シーニックバイウェイ～体感未来道」の取組について
 - ・情報提供2に基づき、説明（空知シーニックバイウェイ事務局）
- (3) 寒地土木研究所による地方公共団体への技術支援について
 - ・情報提供3に基づき、説明（国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所）
- (4) R7北海道開発計画調査等説明会、令和7年度手づくり郷土（ふるさと）賞について
 - ・情報提供4及び情報提供5に基づき説明（国土交通省北海道開発局札幌開発建設部）